

高学年部 第6学年 成果報告書（案）

令和3年5月25・26日（火・水）4校時

サンホセ校 小学部6年1名

指導者 宮本T1

アグアス校 小学部6年2名

指導者 與那嶺T2

1 教科 単元名 縄文のむらから古墳の国へ

2 単元の目標 評価の観点

3 指導観

（1）教材観

縄文のむらから古墳のくにへから比較・ながれを

（2）児童・生徒の実態

アグアス側は2人、サンホセ側は1人と児童数が少なく自分以外の同級生の視点や感覚に触れる機会が少ないので合同授業を通して主体的・対話的で深い学びに結び付けていく。

4 指導計画（全 3 時間）

主な学習内容及び学習活動

（1次）縄文のむらから古墳のくにへ 縄文時代

（2次）縄文のむらから古墳のくにへ 弥生時代

（3次）まとめ

5 本時

（1）目標 ゲーム形式で人々の様子が描かれた資料から互いに相談しながら特徴を読み取っていく。友達の発表をききながら自分で気付かなかった視点とループリックで自分の設定した目標に向かって興味・関心をもたせながら取り組む。

主体的・対話的で深い学びの視点から

主体的な学びからループリック型の学習振り返りシートを使用することで見通しを持たせたり興味関心を引く内容につながった。またふり返りをすることで授業内で考えたことや友達の視点をあとでまとめることにも役立ったと思う。

対話的な学びから子ども同士の対話の場の充実や授業内における「問い」の焦点化にも役立ったと感じた。

（2）児童・生徒の様子

ゲーム形式であったこと、いつも2人で受けている授業にサンホセからロスさんが参加してくれたことで意欲的に学習できていた。

（3）児童・生徒の振り返り

① 成果

児童が示された図を読み取り、比較や気付いたことを互いに発表しあうことで普段の授業よりも主体的で深い学びに近づけたと思う。

② 課題

図をみてもなかなか考えが浮かんでこない児童に対してのサポートがT2の役割としてできなかった。T2で入る場合にも児童から予測される考えを前提に授業前の打ち合わせをしていくべきだと感じた。

③ 提案（今後のオンライン合同授業での活用案・他の日本人学校や日本の学校での実践に生かして欲しいこと。）

・音声環境が悪く声の小さい児童、感染予防のパーテーションがあるとうまく意思疎通を測ることができなかったなのでイヤホンを使用するのか、スピーカーを使用するか各環境に合わせて実施して行くことが必要だと感じた。

（４）教室レイアウト（ICT機器の配置）



用意したもの

教員・PC（ズーム用）・iPad・アップルペンシル・アプリ（ロイロノート）

児童・iPad